

## はじめに

本報告書は、2025年10月から2026年4月にかけて、財務総合政策研究所において7回にわたって開催された「日本の所得分配・再分配に関する研究会」における議論を取りまとめたものである。

日本経済は、長期にわたり低成長と物価上昇の停滞を経験する中で、所得や生活水準の伸び悩みが続いてきた。こうした状況の下、日本では他の一部先進国で観察されるような急激な格差拡大や極端な富裕層集中は確認されていない。一方で、平均所得や中央値は長期的に停滞してきたことに象徴されるように、分布全体としての水準が伸び悩んできたことが、家計の生活実感や将来不安に大きな影響を与えていると考えられる。さらに、未婚化や単身世帯の増加といった世帯構造の変化や、雇用形態の多様化などが進展する中で、従来の枠組みでは十分に捉えきれない分配上の課題が顕在化している。

所得は、就業状態や年齢、世帯構成、景気循環の影響を強く受けるフローである。そのため、所得分配・再分配の実態を把握するに当たっては、特定時点の所得分布のみならず、生涯を通じた所得・消費・資産の動きや世帯構成の変化を踏まえ、多面的に捉える必要がある。

本研究会では、日本において、家計・個人のそれぞれの単位での所得分配・再分配がどのように行われてきたかについて、利用可能なデータや研究に基づいて整理し、所得分配を決定づける労働市場と資本市場がどのように変容してきたかを長期的な視点から振り返った。また、社会保障制度等を通じた再分配が長期的にどのように推移してきたかを概観し、今後の政策上の課題を明らかにすることを目的とした。

委員として討論に参加していただいたのは、宇南山卓氏（京都大学経済研究所教授／財務総合政策研究所特別研究官）、北尾早霧氏（アジア開発銀行研究所シニアエコノミスト）、近藤絢子氏（東京大学社会科学研究所教授）、森口千晶氏（一橋大学経済研究所教授）、安田洋祐氏（政策研究大学院大学教授）である。宇南山氏、北尾氏、近藤氏には、報告者としてご自身の研究についても報告をいただいたほか、北尾氏の共同報告者として山田知明氏（明治大学商学部専任教授）からも報告をいただいた。

また、財務総合政策研究所のスタッフのほか、ゲストスピーカーとして、前田佐恵子氏（東京大学大学院経済学研究科特任研究員／内閣経済社会総合研究所特別研究員）、宮島英昭氏（早稲田大学常任理事/名誉教授）、川田恵介氏（東京大学社会科学研究所准教授）、荒田禎之氏（独立行政法人経済産業研究所研究員）、野口幸司氏（株式会社野村総合研究所金融コンサルティング部シニアプリンシパル）、スズキトモ氏（早稲田大学商学学術院商学部教授）、河野龍太郎氏（BNPパリバ証券株式会社経済調査本部長/チーフエコノミスト／東京大学先端科学技術研究センター客員教授）、山田久氏（法政大学経営大学院イノベーション・マネジメント研究科教授/法政大学人間環境学部教授）、佐藤主光氏（一橋大学大学院経済学研究科教授）からも報告が行われた。

研究会では、日本の所得分配・再分配の実態について、単一の指標や一時点の観測に依拠するのではなく、所得・消費・資産に加え、労働や資本、企業行動、税・社会保障制度など

多様な観点から幅広い議論が行われた。

本報告書が、日本の所得分配・再分配の実態に関する理解を深めるとともに、生涯を通じた所得・消費・資産を含む多面的な視点の重要性についての認識を共有する契機となり、今後の日本の所得分配・再分配政策の在り方を考える参考となれば、議論に加わった者として大変幸いである。

2026年6月 「日本の所得分配・再分配に関する研究会」

座長 楡井 誠（東京大学大学院経済学研究科教授／財務総合政策研究所特別研究官）